

特別セッション（参観無料）

以下の7つのセッションは参観無料、受付不要です。直接会場にお越しください。

10月10日(土)12:40-14:20

- (1)「オープンデータ時代の学校教育におけるGIS」会場A(447教室)
- (6)「データビジュアライゼーションの現在」会場B(443教室)

10月10日(土)14:30-16:10

- (2)「災害対応における自治体GISと外部支援の可能性」会場A(447教室)
- (7)「アジアにおけるFOSS4Gの現状」会場B(443教室)

10月10日(土)16:20-18:00

- (3)「オープンデータと自治体GIS」会場A(447教室)

10月11日(日)9:00-10:40

- (4)「第8回マイクロジオデータ研究会～国・地方自治体によるマイクロジオデータ活用～1」会場A(447教室)

10月11日(日)10:50-12:30

- (4)「第8回マイクロジオデータ研究会～国・地方自治体によるマイクロジオデータ活用～2」会場A(447教室)

10月11日(日)13:40-15:20

- (5)「GISCA特別セッション」会場A(447教室)

特別セッション(1): オープンデータ時代の学校教育におけるGIS

オーガナイザー: 酒井 高正

【第1部】「2014年度初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例」表彰式

本学会が主催し教育委員会の責任において審査を行う上記の表彰事業について、「国土交通大臣賞」、「地理情報システム学会賞」、「毎日新聞社賞」の受賞者を招き、表彰式を執り行う。

【第2部】優良事例の発表会

GISを活用した授業を実践している事例について上記の各賞を受賞された教員の方々から、その内容をご紹介いただき、他の学校での実践の可能性等について探る。

【第3部】中・高等学校などの教育現場におけるGIS活用に関する小シンポジウム

内容、パネリスト等は調整中。

特別セッション(2): 災害対応における自治体GISと外部支援の可能性

オーガナイザー: 畑山 満則

東日本大震災の経験を踏まえ平成25年に改正された災害対策基本法において、行政に関わる機関では、災害応急対策で災害に関する情報の収集及び伝達に努めること、さらに、その実現にあたり地理空間情報の活用に努めることが明示された。防災GIS分科会では、阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災においてGISを用いた自治体の災害対応支援活動を展開しており、様々な知見が得られている。また、支援の手法に関して、オープンデータやオープンソースを用いた仮想空間からの活動についても検討してきた。今年度は、自治体分科会との共同で、これらの活動を一過性のものにしなないための枠組みについて議論し、新たな災害対応支援の可能性について探る。

特別セッション(3): オープンデータと自治体GIS

オーガナイザー: 青木 和人

自治体GISは阪神淡路大震災において、被災情報など情報を視覚化することにより、復旧・復興の礎となり急速に普及した。そして、WebGISの登場により自治体の地域情報発信のプラットフォームも担うようになった。現在、再利用・再配布が可能な行政情報を提供する課題解決型のオープンデータ推進が国主導により進められており、オープンデータに取り組む自治体も100を超えた。今後の自治体GISには、防災情報を始めとする行政オープンデータを双方向にて情報連携するプラットフォームとしての役割が期待される。そしてGISの本質的機能である空間情報の共有化、編纂、視覚化、分析、統計処理などを、職員はもちろんのこと、住民自らが試みて、地域課題解決に活かすことが期待されている。本セッションでは、これまで自治体GISが担ってきた役割を整理した上で、オープンデータのプラットフォームとして、被災者支援や市民協働、クライシスマッピング、災害後の測量データの活用など、オープンデータ時代の自治体GISが負うべき役割や課題について、話題提供を基に議論を行う。

特別セッション(4): 第8回マイクロジオデータ研究会～国・地方自治体によるマイクロジオデータ活用～

オーガナイザー: 秋山 祐樹

<セッション概略>

本セッションでは昨年に引き続き本研究会の紹介を行うとともに、マイクロジオデータを用いた研究を行っている研究者による研究紹介や、マイクロジオデータの利活用が期待される領域の実務者などによる講演が行われる予定です。今年は「国・地方自治体によるマイクロジオデータの利活用」がテーマです。前半は国・地方自治体と大学・民間企業の連携による、新しいマイクロジオデータの整備への試みや、それらを活用した具体的な業務の改善・効率化の事例と、取り組みの中で見えてきた課題についての講演が行われます。後半は講演者と有識者らによるパネルディスカッションが行われます。特に国・地方自治体によるマイクロジオデータ利活用の最前線とその課題を知っていただくとともに、学の研究者と官民の実務者、おのおのが持つマイクロジオデータのシーズとニーズを結びつけて活発な議論が交わされることを期待しています。

<プログラム> ※講演者・講演タイトル、講演スケジュールは当日までに変更される場合がございます。

9:00～9:05「マイクロジオデータ研究会と研究会活動の紹介」

東京大学空間情報科学研究センター / 国土交通省国土交通政策研究所 秋山祐樹

<前半:講演>

①「官学連携」による新しいMGD整備と利活用

9:05～9:20「Pstay」～水戸市におけるクラウドソーシングを活用した道路交通量データ開発の概要～」

東京大学空間情報科学研究センター / 国土交通省国土交通政策研究所 秋山祐樹

9:20～9:40「水戸市のオープンデータへの取り組みと今後の展開」

水戸市情報政策課 北條佳孝

②「産官連携」による新しいMGD整備と利活用

9:40～9:55「道路走行調査におけるPlus1走行調査への取り組み」

グローバル・サーベイ株式会社 代表取締役社長 須藤三十三

9:55～10:10「SCSKにおけるクラウドソーシングの取り組みと道路調査について」

SCSK株式会社 マネージャー 鈴木利昌

③「産官学連携」による新しいMGD整備と利活用

10:10～10:20「大規模企業間取引データを用いた地域創生のための企業および地域のレジリエンス評価」

東京大学空間情報科学研究センター / 国土交通省国土交通政策研究所 秋山祐樹

10:20～10:35「地方創生における産業データの利活用」

株式会社帝国データバンク 六信孝則

10:35～10:55「地域経済分析システム (RESAS) について」

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータ室 松本正倫

前半総括

10:55～11:15「G空間社会の実現に向けた政府の取り組みについて」

国土交通省国土政策局国土情報課 課長 筒井智紀

11:15～11:25 休憩

<後半:パネルディスカッション>

11:25～12:10 公開ディスカッション・質疑等

・コーディネーター

東京大学空間情報科学研究センター 教授 柴崎亮介(予定)

・パネラー(当日までに追加・変更がある場合がございます)

水戸市情報政策課 北條佳孝 /

グローバルサーベイ株式会社 代表取締役社長 須藤三十三 /

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータ室 松本正倫 /

国土交通省国土政策局国土情報課 課長 筒井智紀

12:10～12:30 名刺交換会

<参加登録のお願い>

当日配布を予定している資料の作成部数や会場設営の都合上、事前に大まかな参加者数を把握したいと考えています。ご参加頂ける方は以下から参加登録をお願い致します。

<https://goo.gl/S1JVfD>

なお事前のご登録無しでもご参加頂けます。また学会内での特別セッションという性質上、事前にご登録頂いた方でも当日席をご用意出来ない場合がございます。ご了承下さい。

特別セッション(5): GISCA特別セッション

オーガナイザー: 大伴 真吾

GIS事業分野の担い手として、GIS上級技術者(GISE)資格が注目されつつあるが、当分野の更なる発展を期すためには、個々の経験に基づく知見や新たに開発した技術を共有し、議論する場が欠かせない。また、GISE資格の有効期限は5年間であり、その間に、GIS分野に対して一定の貢献をすることが義務付けられている。

このような背景のもと、本セッションは、資格をもつ発表者には貢献の機会を与え、参加者には教育の機会を与えることを通じて、相互研鑽することを目的に、開催するものである。また、GISE資格の取得を目指す人々や興味をもつ人々の参加も歓迎したい。

特別セッション(6): データビジュアライゼーションの現在

オーガナイザー: 瀬戸 寿一(東京大学空間情報科学研究センター)・嘉山 陽一(朝日航洋株式会社)

近年D3.js, IPython Notebook, GESIUM等データビジュアライゼーションツールの進化が進む中で、これらのツールで地理空間情報を扱うことが多くみられるようになってきた。本セッションではこれらツール利用事例の紹介と地理空間情報分野への応用可能性を討論する。

1. 「最新のジオビジュアライゼーション事例」清水正行氏 (GUNMA GIS GEEK)
D3.jsやTurf.jsなどのジオビジュアライゼーションライブラリや、Mapbox、CartoDBなどクラウドサービスの最新事例を紹介する。
2. 「Python GeoPandas を使った地理情報処理」小副川健氏(富士通株式会社)
GeoPandas とは Python の代表的データ処理ライブラリである Pandasに、地理情報を扱う拡張がされたものである。本講演では GeoPandas の導入や代表的機能を紹介する。
3. 「データビジュアライゼーションの地理空間情報分野への応用可能性」
矢崎裕一氏(東京大学空間情報科学研究センター・Code for Tokyo)
最新事例やツールの機能紹介を受けて、地理空間情報分野への応用可能性を検討する。

事例発表後、DataViz分野からの期待、GIS研究や実践活動における応用可能性・課題等についてディスカッションする。

特別セッション(7): アジアにおけるFOSS4Gの現状

オーガナイザー: 嘉山 陽一

2014年12月 FOSS4G ASIA開催(タイ バンコク) 2015年6月 FOSS4G India2015, 2015年9月 FOSS4G KOREA(ワールドカンファレンス)開催でアジア地域におけるFOSS4Gコミュニティの活動が活性化してきています。本セッションではFOSS4G Indiaのオーガナイザー Dr. K.S. Rajan (Head, Lab for Spatial Informatics, Associate Professor, International Institute of Information Technology, Hyderabad, India, 東大柴崎研OB)をお招きしてインドのOSGeoコミュニティとFOSS4Gの状況をうかがうとともにFOSS4G Asia, FOSS4G Koreaの報告等を交えアジアにおけるFOSS4Gの状況共有を行います。